

# 自治体事業報告書

自治体名 : 島根県松江市

## 研修員名、研修分野、研修期間、主な研修部署

- 許 楓 (中華人民共和国)  
平成 22 年 5 月 23 日～12 月 3 日 (7 ヶ月)  
一般行政、経済、環境、観光、国際交流 等  
(松江市役所 産業経済部、環境保全部、観光振興課、国際交流課、松江市国際交流協会、公民館)
- 王 軍 (中華人民共和国)  
平成 22 年 5 月 23 日～12 月 3 日 (7 ヶ月)  
医療  
(松江市立病院 整形外科、緩和ケア・ペインクリニック科)

## 1 背景・目的

松江市では、海外の 5 都市と友好提携を提携している。近年では北東アジア地域の、特に中国の友好都市を中心に交流が活発である。

この各都市と都市間交流を進めるうえで、相互の行政組織(団体)の仕組み、仕事の進め方や、習慣・文化の違いなど、国際理解の推進が求められてきた。

このため、研修員という「人材」を介した情報交換を図るため、自治体職員協力交流事業を 2000 年(平成 12 年)から実施し、現在に至っている。

平成 22 年度は、吉林省吉林市(1999 年提携)、寧夏回族自治区銀川市(2004 年提携)から研修員の受入れをすることで、それぞれの都市と松江市との人的交流の活性化を図り、延いては国際文化観光都市・松江市の国際貢献の資質を高めようとするものである。

## 2 研修内容

《共通研修》

- ・東京研修(CLAIR 主催) 5 月 24 日～5 月 25 日  
※オリエンテーション
- ・日本語研修(JIAM) 5 月 26 日～7 月 7 日  
※基本日本語能力の習得
- ・日本語研修(しまね国際研修館) 7 月 8 日～7 月 29 日

## ※日本の生活に必要な実用日本語能力の習得

### 《専門研修》

- 許 楓（中華人民共和国）一般行政、経済、環境、観光、国際交流（松江市役所 産業経済部、環境保全部、観光振興課、国際交流課、松江市国際交流協会、公民館等）

許研修員は、帰国後の職場復帰に際して、研修成果を直ちに生かすため、来日当初は国際交流、観光の研修を希望した。しかしながら、専門研修の実地にあたり、より幅広い分野で松江市の行政研修を受けたい、また趣味であり得意分野でもある書道を通した市民交流研修を受けたいとの希望を加えたことから、これらを網羅できる関係部署での研修を、全体スケジュールの調整をしながら実施した。

松江は「国際文化観光都市」という冠を有していることから、国際関係事業、観光事業に力を注いでいる一方、山陰をリードする中核都市として積極的な企業誘致、農業・漁業などの第一次産業の育成など経済活動にも力を注いでいる。また、「リサイクル都市日本一」を掲げるなど環境施策にも積極的である。これらの分野を、トータル的に研修することで、許研修員は日本の行政における「横の連携の仕組み」や地域と行政の密着性について理解できたはずである。

特に産業経済部では漁業、農業を直接的に体験できる研修を行うことで、行政が支える第一次産業の重要性や、企業誘致と定住施策の関係を理解する研修を行った。



〔JAカントリーエレベーター視察研修の様子〕

また、松江の秋を代表する観光イベント「松江水燈路」では、観光振興課の職員と一緒に、設営作業や接客などを行った。

さらに、許研修員が得意とする「書道」を通して、市民交流に参加することで、「市民に優しい行政」という近年の日本の行政が力を注いでいる分野の研修を充実させることができたし、市民と積極的なコミュニケーションをとる機会に恵まれたことで、自らの日本語能力も高める研修にもなった。

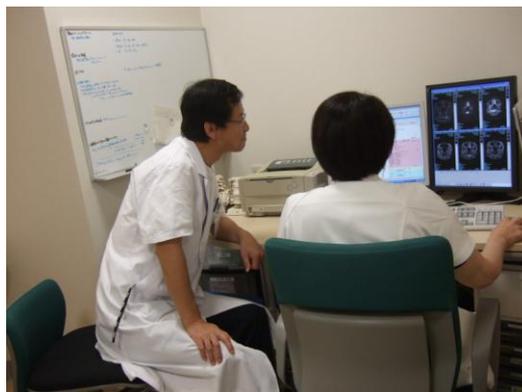
帰国後は、友好都市・吉林市との多岐にわたる交流の窓口となっていただけることを期待したい。

## ■ 王 軍（中華人民共和国）医療〔松江市立病院〕

日本の高度医療を研修する目的で、銀川市からは継続して医師を受け入れ、研修を実施している。

今回は、王研修員が希望する整形外科（担当医師：近藤康光医師）と緩和ケア・ペインクリニック科（担当医師：安部睦美医師）を主体に、医療研修が行われた。研修に当たっては、法律上直接的な医療行為はできないものの、最新の医療機器を使用した手術の現場に立会い、これら機器の操作方法の習得などの研修を積極的に取り組むことで、日本の医療水準の高さを理解できる研修となった。

整形外科においては、術式やテクニックを学ぶだけでなく、医師と看護師の間のコミュニケーションの取り方や暗黙の連携について、理解



〔緩和ケア研修の様子〕

を深めることができたようだ。このことについて、王医師が自らの研修報告書の中で絶賛していることから明らかである。

緩和ケア・ペインクリニック科は、この分野が日本の医療研修において最も中国が学ぶべきものであると、専門研修開始前の研修内容打ち合わせの際に王研修員が語っていた分野である。患者の痛みを取り除くことで生活環境が飛躍的に改善する緩和ケア、音楽を聴くことによって病気に対する精神的な支援に繋がる音楽療法など、今後、中国の医療現場に積極的に取り入れられるべき分野であることを理解してもらえたはずである。特に、日本での慣れない生活を始めた時に、王研修員自らが音楽療法を体験し、その効果を実感することになった。このことは、偶然の産物ではあったが、結果として大変意味のあるものとなったはずである。

さらに、治療方法を検討する各種ミーティングや、医師学会などへも参加することで、医療現場だけでなく学術的研修にもつなげることができた。

今回の研修内容の立案・調整には、担当医師や医局全体の配慮があったものである。帰国後は、友好都市・銀川市の医療技術の向上だけでなく、病院内の連携についても成果を発揮されるものと期待したい。

### 3-1. 工夫したこと

(1) 研修場所への移動の際に路線バスを利用することで、松江市での生活を豊かにすることができた。

- (2) 市役所内の多くの部署に専門研修先として受入れを了解してもらうことで、研修員と職員との交流を促進することができた。
- (3) 国際交流員（中国）の住むアパートと研修員の住むアパートを近接させ、相互の行き来を容易にすることによって、諸々の相談事案等が発生した際の解決が円滑にできた。

### 3-2. 苦勞したこと

- (1) 専門用語などの日本語能力が不十分な研修員もおり、現場でのコミュニケーションに苦慮した。
- (2) アパートのインターネット接続がされていないことによる情報収集不足やストレス。（結果的には、国際交流員のアパートでインターネット接続をすることにより、一応の解決は図られた。）

## 4. 成果・課題

従来、専門研修を実施するに当たって、受入れ部局及びその担当者は、通常業務の他に本件受入れ事務をするがゆえに、時として研修員が「お客様状態」になっている部分もあったことから、この反省を踏まえ、平成21年度の本件事業実施において、国際交流課と受入れ部局との連絡を密にすることで、毎日を充実した研修にする工夫を行った。平成22年度は、この経験を基に、2週間単位で国際交流課とカウンターパートになる部署との打ち合わせを実施することで、研修成果をより高めることにつなげることができた。

これにより、各友好都市を代表して派遣されてきた各研修員の持っている優れた能力を引き出し、また、研修員が自らの自治体に帰国されてからの業務へ十分活かすことができる研修となったと考えている。

さらに、これらの密な連絡や協議、定期的なミーティングをすることにより、我々（松江市）にとっても友好都市の最新の実状を知ることができたという意味で、有益なものとなったと考えている。

研修にあたっては、希望する研修分野や生活情報について、研修員自らが情報収集できるインターネット環境を整えることで、より充実した研修を実施につなげることができるものと考えている。またこのことは、研修員のストレス防止にもなると考えていることから、今後は、この点について更に工夫をしたい。具体的には、従来はアパートでのインターネット接続への配慮をしていなかったが、次年度の実施の際にはアパートのインターネット接続環境を整えたい。

本事業は、受入自治体での「長期滞在型研修」であるという利点を活か

し、我々も研修員と積極的に関わることにより、日々の自治体業務の枠を超えた視野を育成できるという意味で、相互に効果がある事業と認識している。松江市では、国際文化観光都市として市職員の国際意識向上のためにも、国際交流課を窓口として多くの職員と研修員が交わることができる研修プログラムの構築に努めるとともに、市民が研修員と交流ができる機会を多く設け、市民の国際理解の推進にも努め、引き続き当該事業を継続実施していきたい。

## 賈さん、山口県と山東省の観光交流の架け橋に

自治体名	山口県
研修員名	賈維沙
出身国	中華人民共和国
研修分野	観光
研修期間	6カ月
主な研修先	観光交流課

### 1. 背景・目的

山口県は、『県民がともに築く「国際元気県やまぐち」』の実現を目指して、次の5つの方向で国際化施策を推進している。

- (1) 世界に広がるネットワークづくり
- (2) 地域経済の国際化の推進
- (3) 山口らしい国際協力の推進
- (4) 県民活動による国際化の推進
- (5) 国際化を支える地域社会づくり

また、本県は豊かな自然、歴史・文化遺産、良質な温泉など多くの観光資源に恵まれ、これらを活用して、年間観光客3千万人構想の実現を目指し、情報発信や誘客、更には、海外からの観光客誘致にも積極的に取り組んでいる。特に、友好・姉妹提携を締結している中国山東省と韓国慶尚南道とは、観光面においても交流を進めている。

こうした本県の友好提携先との人的交流を進め、世界に広がるネットワークづくりを推進するとともに、観光面における交流を一層推進するため、山東省旅遊局の職員を研修員として受け入れた。

### 2. 事業実施にあたっての工夫など

賈さんは、山東省旅遊局で主として日本からの観光客誘致を担当してきたところであり、コミュニケーション面では全く問題がなく、スムーズに意思疎通ができた。

このため、中国からの教育旅行の受入や中国の旅行会社と県内の観光事業者との商談会、あるいは、HPに留学生レポートを掲載するために実施した視察ツアーや在京の外国メディアによる本県取材ツアーの受入に際して、通訳をお願いするなど、国際観光推進の現場では前線に立って活躍してもらったところである。

一方、国内向けの様々な取組、例えば、観光ボランティアガイドの研修会、集客イベントなどについては、旅遊局勤務の際ほとんど経験したことがなかったため、参加する機会を設け、日本と中国の観光PRの違いやボランティアの活躍などを間近で見聞きしてもらったところである。

特に観光ボランティアガイドは、山東省にはこうした組織もなく、勉強になったと話していた。



11月の「きらら物産フェア」では、観光ブースでパンフレット等を配布。

また、毎週金曜日に翌週の日ごとの研修予定表を作成し、進行管理を行う方法を取り入れた。このため、計画的に県の観光施策・計画等の座学や実務研修、さらには休日を含めたイベント行事の見学・参加などを組み入れることができ、充実した研修生活を送ってもらえたのではないかと考えている。

### 3. 成果・課題

- 中国山東省からの教育旅行団が本県を訪問し、学校交流を行った際、通訳として同行してもらったが、通訳業務以外にも生徒と積極的に話をして緊張をほぐすなどの気配りにより、交流がスムーズに行われた。



教育旅行で山口市内の高校を訪問した山東省済南市の高校生に話しかける

- 平成22年に開設した外国向けの観光ウェブサイトでは、県内の留学生等外国人の目から見た山口県観光の魅力をレポートの形で掲載している。賈さんにも、出張やプライベートで県内の観光地を訪れた際の印象や感想などを書き留めてもらい、「賈維沙の山口好好」としてHPに掲載し、旬の情報を提供してもらった。
- 平成21年3月、山口宇部空港（宇部市）と山東省の済南国際空港との間で「友好交流に関する合意書」を締結した。このことに関連して地元のFMラジオ局番組「ニーハオ 山東省」の中で、山東省の観光のことや賈さんの山口県での生活などについて話して欲しいとの依頼があったため、月1回、5回ほどラジオに出演し、山東省の観光事情や山口県の観光地で体験した様々な事柄についてリスナーに語りかけた。
- 前年度は、新型インフルエンザの影響等により中国からの教育旅行がキャンセルとなったが、今年度は予定どおり実施され、学校訪問の際の通訳など活躍する場を作ることができた。しかしながら、通常業務に追われ、事前に十分な説明を行うことができなかったことは反省している。
- 山口県と山東省とは1982年に友好協定を締結して以来、さまざまな分野で交流を重ね、平成22年8月に知事が山東省を訪問した際、山東省長と観光交流分野における更なる推進を図るため、観光交流協定の締結について合意がなされた。賈さんが研修を終了して帰国した後にも、彼女が所属する旅游局とその協定締結に向けて協議を行っているところである。  
賈さんには、協定に基づいて行う様々な観光交流事業の推進に当たって、山口県と山東省との架け橋として活躍していただくことを心から願っている。

## 平成22年度自治体職員協力交流事業報告書

自治体名：愛媛県松山市  
研修員名：鄭 淑  
派遣元自治体：大韓民国 平澤市  
研修分野：一般行政  
研修期間：6ヶ月  
主な研修部署：子育て支援課、税務3課(納税課、資産税課、市民税課)、  
スポーツ振興課、国際文化振興課など

### 1. 背景・目的

本市では国際協力に対する取り組みとして、平成15年度から「自治体職員協力交流事業」により海外の自治体職員の受入れを実施しています。

平成17年度からは、友好都市である大韓民国・平澤市の職員を受け入れており、職員交流を行なうことで、行政交流の活性化を図り、友好都市交流の進展を図っています。また、国際交流イベントへの参加や学校訪問を通して、市民への友好都市の周知や異文化理解の促進にも取り組んでいます。

### 2. 事業実施にあたっての工夫、苦労したことなど

研修内容が「一般行政」という事で多岐にわたること、また、研修員の鄭 淑さんは日本語が非常に堪能で、行政用語においても支障がなかったことから、出来るだけ多くの分野でたくさんの人との交流を経験してもらうことを目標に、本人の興味・関心がある分野を取り入れながら研修を計画し実施しました。

また、様々な分野の職員との交流も図れるように、各研修先に出来るだけ長期の研修を依頼したり、職員対象のハングル講座を開催したりしました。



子育て支援課での研修  
(中央が鄭 淑さん)

### 3. 成果・課題

研修員によるハンゲル講座は大変好評で、職員との交流を深めることが出来たと同時に、職員の国際分野への興味・関心を喚起することが出来たと思います。

市の研修以外にも、まつやま国際交流センターのイベントへの参加や国際理解講座などの講師体験を通じて、地域に密着した活動行うことができました。

特に小・中学校の授業では、韓国のような文化や風習を子どもたちに紹介し、異文化理解の促進と友好都市の PR を行うことができました。研修員にとっても、子どもたちとの触れ合いは、日本の学校生活や風習などを新たに発見する良い機会になったようです。

また、平澤市からの行政視察団などの来松にあたっては、通訳やアテンド業務を担う「要」の役割を果たし、まさに両市の架け橋として活躍しました。

この自治体職員協力交流事業を通して得た経験を、研修員が自国で活かして活躍され、松山市と平澤市の友好関係の促進に寄与して下さることを期待するとともに、当市においても交流プログラムの充実・発展が図れるよう受入経験を活かしていくことが今後の課題です。



埋蔵文化財センターにて  
取材の通訳

平成22年度自治体職員協力交流事業 鄭 淑さん研修先一覧

研 修 先	内 容
国際文化振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松山市・平澤市 中学生相互交流事業</li> <li>・ 平澤市議会議員研修団対応</li> <li>・ 平澤文化院・平澤市民新聞取材 対応</li> <li>・ ハングル講座</li> <li>・ ESD 事業、アジア・アフリカ キャンプ in 中島</li> </ul>
スポーツ振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中島トライアスロン</li> </ul>
人事課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新採用職員フォローアップ研修 講師</li> </ul>
子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務研修、児童クラブ見学</li> </ul>
保健所 医事薬事課 健康づくり推進課 衛生検査課 保健予防課 生活衛生課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設見学、概要説明</li> <li>・ 高齢者運動支援事業、検診、調理実習、赤ちゃん相談</li> <li>・ 施設、設備見学</li> <li>・ 精神障害者家族教室講習会、難病リハビリ機能訓練</li> <li>・ 動物愛護施設見学</li> </ul>
観光産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松山城、道後温泉、薪能</li> </ul>
税務3課 納税課 資産税課 市民税課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市税の概要、税務3課の業務概要、徴収</li> <li>・ 固定資産税の評価・賦課</li> <li>・ 市民税等の賦課</li> </ul>
行政情報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国勢調査</li> </ul>
市民課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体研修、窓口研修（予定）</li> </ul>
広報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内報「つばき」取材</li> </ul>
農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「まつやまブランド」PR</li> </ul>
環境事業推進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Re・再来館視察</li> </ul>
南クリーンセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設見学</li> </ul>
中央消防署	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防施設および事業見学、体験研修</li> </ul>
子規記念博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内視察</li> </ul>
埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内視察</li> </ul>
新玉小学校、小野中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESDに関する授業見学</li> </ul>
椿小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合学習授業講師（小5、小6）</li> </ul>
（財）松山国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松山市・平澤市 中学生相互交流事業</li> <li>・ フライブルク市友好ぶどう園 ぶどう収穫体験</li> <li>・ 秋祭り（お神輿体験）</li> <li>・ ジュニア国際交流サロン 講師</li> </ul>
松山市文化協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然探訪（佐田岬散策）</li> <li>・ 松山市民文化祭（美術展、映画祭）</li> </ul>
（財）松山観光コンベンション協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 韓国旅行会社視察対応</li> </ul>
（財）松山市文化・スポーツ財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクアパレット視察</li> </ul>
松山・平澤友好協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなの生活展ブース 参加</li> <li>・ 交流イベント参加</li> </ul>

## 「平成 2 2 年度自治体職員協力交流研修員の土木技術研修について」

自治体名	: 高知県
研修員名	: エドゥアルド・アンテロ・ソリス
派遣元自治体	: フィリピン共和国
研修分野	: 土木
研修期間	: 6 か月
主な研修部署	: 高知県中央西土木事務所

### 1 背景・目的

高知県では、昭和 50 年にフィリピン・ベンゲット州と姉妹県州提携し、以降ほぼ毎年高知県海外技術研修員として受け入れてきた。平成 17 年度から自治体職員協力交流事業により受入れ、本県の持つノウハウや技術を習得、人材育成等を目的としている。

### 2 研修内容

(受入自治体でどのような研修を実施したか。)

#### ●コンクリート製品並びに生コンの工場

目的：コンクリートブロック等製品に至るまでの工程並びに品質管理を理解するため  
生コンクリートについても同様

#### ●水道施設視察

目的：取水から飲料水として受益者が利用できるまでの工程並びに水質管理の理解

#### ●土佐市クリーンセンター視察

目的：分別収集された一般廃棄物が、どのような過程で処理されていくのか知る

#### ●管内工事現場視察（施工管理含む）

目的：請負業者がどのような組織体制で施工方法をどう考え、施工管理（工程、出来型、品質、安全管理、環境対策等）にどう取り組みながら工事を実施しているのか確認するため

#### ●新技術新工法&橋梁点検研修会参加

目的：土木技術に関する新工法の事例紹介の把握&既設橋梁を将来に亘り長く利用していくために必要となる橋の診断研修

### 3 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

- ・フィリピンにおける土木技術の水準または実情など日本との相違点から相互理解に至るコミュニケーションに苦労した。また、このことに配慮しながら目的や意図するところを丁寧に説明し、コミュニケーションを活発におこなった。

例えば、日本ではコンクリート構造物の建設にあたり、工場生産されたコンクリート二次製品をよく使うが、フィリピンはこの様に十分な品質が保たれる工場がないため、現場練りによるコンクリート構造物が主流であると聞いた。また、ベンゲット州ではアスファルト舗装についても十分な品質管理を有する工場がないため、コンクリート舗装が主流で有るとも聞いた。

したがって、この様な工場視察をはじめ、コンクリート二次製品を扱う色々な工事現場の視察は大変参考になったのではないかと思う。

- ・コミュニケーションツールとして、電子辞書を活用
- ・事務所内の工事現場の研修だけでなく、他の土木事務所のインフラ施設（ダム等）視察や現地所研修会への参加や、管内の県所管外のインフラ施設（上水道、産廃焼却施設等）についても、市町村等の協力を得て現地研修を行った。
- ・維持管理課については、目新しい工事とか大規模なものでない道路パトロール、検査、調査業務に同行してもらい、業務を補助してもらった。
- ・アスファルト、コンクリートプラント、土佐市水道施設等の見学を実施した。
- ・英語のパンフレットを準備した。

#### 4 成果・課題

日常的に研修員と触れ合うことで、異国における土木行政や技術の現状を知ることができた。

交流はこれまで、高知県がベンゲット州の技術研修員を受け入れてきているが、県技術職員をベンゲット州に派遣（研修）することも必要ではないかと考える。現在の日本では、一般的に指針等に基づいた画一的な構造物が造られているが、フィリピンは開発途上国であるがゆえに、現場現場で材料を調達し、それを過去の経験や工夫により臨機応変に土木構造物が造られている。その中では失敗事例が多数あると思われるが、こうしたことを知ることは、今後のコスト縮減に役立ち、現場での適応能力向上に非常に役立つと考えられる。

また、ベンゲット州に直接県職員が行き交流することで、日本のノウハウを州職員に広く伝えることもでき意義があると考ええる。

プラント、施設等の見学は、熱心に見て回り研修員も満足していた。身振り手振りで意思疎通はなんとかできたが、英会話の能力を高めておく必要がある。

5. 研修時の写真



7月14日 谷地 道路改良 工事現場にて（土佐市谷地）



土佐市クリーンセンター（土佐市北原）にて

平成 22 年度自治体職員協力交流事業報告書  
～ 自治体職員協力交流研修員の受け入れについて ～

受入自治体： 高知市  
研修員氏名： 周 鋒  
派遣元自治体： 中華人民共和国 安徽省 蕪湖市外事弁公室  
研修分野： 一般行政  
研修期間： 6 ヶ月  
主な研修部署： 高知市総務課・環境業務課他

## 1 背景・目的

本市では、蕪湖市（中国）、スラバヤ市（インドネシア）、フレズノ市（アメリカ）、北見市（北海道）と姉妹・友好都市提携を結んでおり、交流をより深めるため、友好・姉妹都市から自治体職員協力交流事業での研修員の受け入れをおこなっている。受け入れは平成 10 年からはじまり今回で 14 人目となった。

中国安徽省蕪湖市とは、1984 年に友好都市を提携し、それ以降文化・経済等さまざまな分野で交流を続けている。特に平成 22 年は友好都市提携 25 周年にあたり、両市への訪問交流事業などを予定していたことから、友好都市との連絡・調整等に研修員の協力を得られれば、言語や文化についてスムーズに理解がしあえ、さらに交流を深めることができるものと期待し、蕪湖市からの研修員受け入れを決定した。

## 2 事業実施にあたっての工夫・苦勞したこと

慣れない土地で生活を始める研修員を受け入れる際に、本市が毎年留意をしている点がいくつかある。

まず研修員受け入れの準備として研修員の自宅を構える時に、緊急時の対応と利便性に配慮し、極力職場近辺で探すようにしている。

その次に、研修員が職場や地域に打ち解けるよう、研修員が高知に到着した日に職員が集まり、毎年食事会を開催している。また、その帰宅時に自宅から近い店に立ち寄り、買い物の仕方等を伝え、高知での生活に一日でも早く慣れてもらえるようにしている。

また、県の国際交流員や高知市在住の関係者を積極的に紹介し、つながりをつくることで研修員の孤独や不安感を軽減するよう努めている。

その他、市内の日本語学校に約 1 ヶ月通学することとし、日本語能力の向上を目指している。周研修員の場合、カリキュラムの中で日本の史跡めぐりや桂浜などの観光地視察する他、携帯電話の契約や買い物の仕方について学び、日本での生活を実践できたことが大きな自信につながったようである。

### 3 成果・課題

周研修員は、持ち前のバイタリティーで慣れない土地での文化や習慣に適応し、あらゆるものを吸収するよう努め、多くの成果を獲得していった。

研修員は来日前から独学で基本的な日本語を習得していたが、J I A M研修での1ヶ月を過ごした後、高知市に来てから約1ヶ月半の間日本語学校に通った。その後も引き続き日本語学習フォローアップ課題等に真剣に取り組んだ。熱心に日本語能力の向上に努めた結果、ほとんどの日常会話を使いこなせるようになり、職場にもとけこみ、家族の話をしたり冗談を言い合えるほどになった。

高知市では総務部総務課・国際平和係に席を置き、一般行政について研修をおこなった。周研修員は日本のゴミの分類・再利用等に以前から強い関心があり、清掃工場や環境担当課にて講義を受けた。また、高知のまんが文化にも関心をもち、市内の専門学校や文化施設を視察した。

10月11～17日までの日程で行われた、蕪湖市との友好都市提携25周年記念事業による高知市民親善訪問団派遣に際しては、行政団に随行し蕪湖市との調整をはじめ訪問中の通訳やガイドとして大きな役割を果たしてくれた。高知市と蕪湖市との交流事業も滞りなく終えることができ、大きな成果をおさめることができた。

10月末には、国際交流員とともに一般市民対象の文化講座を開催し、蕪湖市の料理を中心に文化や自然について写真を提示しながら紹介を行い、参加した市民との楽しい交流の機会となった。

周研修員は、高知に到着後間もない頃から、釣りや山登りに出かけるなど活発に行動を始めた。よさこい祭りや地域の行事に参加し、地元の小学生とともに稲刈りを体験するなど、高知ならではの文化や生活を楽しむことができたのではないと思う。

この研修を通じて研修員と関わった職員・市民のつながりが今後も続いていくこと、そして本市と蕪湖市との友好関係、国際交流の発展に広がっていくことを願っている。本市としても、今後も可能な限り自治体職員協力交流研修員の受け入れを継続し、友好・姉妹都市との交流をさらに深めていきたいと考えている。



よさこい祭りに参加（中央：周研修員）



高知の自然に親しむ

## 平成22年度 北九州市自治体職員協力交流事業について

自治体名	福岡県北九州市	
研修員名	①ドゥ・クアン・ミン	②姜 閏淑
出身国	ベトナム	大韓民国
研修分野	国際交流	消防
研修期間	6ヶ月	5ヶ月
主な研修先	企画文化局アジア交流課	消防訓練研修センター
研修員名	③史 磊	④マナシヤン・マリア
出身国	中国	ロシア
研修分野	環境	国際経済交流支援
研修期間	5ヶ月	7ヶ月
主な研修先	環境局環境国際戦略課アジア低炭素化センター	産業経済局貿易振興課

### 1 背景・目的

北九州市では、平成8年度から自治体職員協力交流事業を活用して、アジアを中心とした海外の自治体等の職員を研修員として受け入れ、研修を通じた海外とのネットワーク構築や市職員の国際感覚の向上などにより、本市の国際化推進に大いに役立っているところである。(平成8～22年度、12カ国、52名)

受け入れる研修分野は、一般行政、環境、消防など幅広い分野にわたっており、派遣国・自治体からも地方行政に携わる職員の育成に貢献するプログラムとして高く評価されている。

### 2 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

#### <研修員①>

- ・国際交流業務、環境施策の説明、市勢概要のベトナム語版作成等の業務を行った。
- ・日本語能力が専門的な説明にも対応できるレベルには至らなかったため、研修を含め英語での意思疎通が中心になったことが課題といえるが、友好交流協定を結んだ都市からの研修生だったので、両市の交流事業もより進展した。

「市勢概要翻訳」の新聞取材の様子

#### <研修員②>

- ・他都市の消防局（京都市消防局、長崎市消防局等）を視察し、各都市の地域特性に応じた独自の取り組み等を学ばせるとともに、多くの消防関係者との交流を図る機会を設けた。



- ・消防署における市民指導等の実務を学ぶため、2つの消防署において約3週間の実務研修を実施した。

#### <研修員③>

- ・ JICA カリキュラム『廃棄物管理技術と環境教育』（循環型社会構築（概論、法令と仕組み、省エネと企業の役割）、コンポスト試作講義・演習、産業廃棄物管理、地方自治体環境行政概論・国際協力、一般廃棄物管理計画、一般廃棄物管理運営、家畜廃棄物の堆肥化・検査方法、地域社会での環境教育、自然回復技術と実践）の参加、北九州エコタウン、北九州市内企業の視察、高校生への大連市環境政策の紹介などの研修を実施。
- ・ 日本と中国では大規模プロジェクトに対する行政の係わり方が大きく異なる。日本側が抱えている当事者意識や問題などを理解して貰うのに時間がかかった。



リサイクル工場視察



製鐵所視察

#### <研修員④>

- ・ 現在ロシアとのビジネスを進めている、企業を中心に、企業訪問を実施。ロシアとのビジネスの現状をヒアリングし、今後の進め方などについても、意見交換を行った。
- ・ 日本側の企業との意見交換を行うことで、帰国後の北九州市とチェリャビンスク市の経済協力協定締結後の実務に役立つ情報を得ることに重点を置いて研修を行った。
- ・ また、本市の強みである「環境分野」に関する産業についての理解を深めるため、「北九州エコタウン」の視察、環境分野に係る企業訪問を積極的に行った。
- ・ 研修期間中にロシアからの訪問団の来日が2度ほど重なり、受入れ側の実務についても研修の機会を得ることができた。
- ・ 気候、慣習の違いによる体調不良が多々見受けられ、健康管理に気がついた。



産業経済局貿易振興課事務所にて



タタールスタン共和国ミッション団受入れサポート

### 3 成果・課題

#### <研修員①>

派遣元自治体と本市は友好・協力関係に関する交流協定を結んでおり、両市の架け橋となる人材が増えたことが大きな成果である。今後も本事業を活用し、様々な分野で協力を進めていきたい。

<研修員②>

研修員が消防業務全般に触れられるよう、本研修を実務研修として実施した結果、様々な知識や技術が得られたと考え、帰国後における技術移転がかなり期待される。

<研修員③>

本市において、研修だけでなく、地域の行事にも積極的に参加をして、日本の文化や風習などを理解して貰えた。帰国後は、本市と大連市環境保護局との架け橋として活躍してもらいたい。特に、本市が協力をした『大連生態工業モデル園區』(経済産業省事業)は平成23年3月で終了をするが、本プロジェクトは長期間に渡ること事から、引き続きプロジェクト成功の為に努力してもらいたい。

<研修員④>

本事業によって、本市と経済・文化交流が進展中であるロシア連邦・チェリャビンスク州、チェリャビンスク市から研修員を受け入れることができたことで、当地域とのビジネスを行っている企業、またこれから始める企業にとって、ビジネス支援の窓口を得たこと、また顔の見える関係を構築することができたことは今後のビジネス展開を促進するものとなった。

また、当地域が高い関心をもつ本市の環境分野に関する産業の理解を深めてもらったことで、新たなビジネス展開の可能性も広がった。今後も本市について、また本市の企業や環境産業分野の知識を持った、人材を育成していくことで、両地域のビジネスに関する支援体制の強化に繋がることを期待している。

## 「研修員と佐賀市との絆」

自治体名	佐賀県佐賀市
研修員名	楊 建新
出身国	中華人民共和国
研修分野	教育
研修期間	8ヶ月
主な研修先	佐賀市国際交流室・佐賀市教育委員会

### 1 背景・目的

本市は、1998年に「徐福」を縁にして、中国江蘇省連雲港市と友好都市締結を行い、翌年から毎年、連雲港市政府より1名の協力交流研修員を受け入れている。

当該研修員を受け入れることにより、様々な行政実務研修を受ける中で日本の行政システム等を習得させるとともに、市民との交流事業を実施し、市民の中国に対する理解・認識を深め、更には、中国人を始めとする在住外国籍市民の生活支援施策の一翼を担ってもらうことを目的としている。

### 2 事業実施に当たっての工夫・苦労したこと

研修の内容としては本人が教育関係より派遣されており、広範囲に教育の内容を知りたいとのことで、幼児教育の現場から大学教育に至るまで見学した。

- ・福祉関係課に協力していただき、就学前児童を遊ばせる公共スペース（ゆめぼけっと）や保育所を見学させていただいた。同時に、社会福祉制度について解説してもらった。
  - ・佐賀市教育委員会を通じて佐賀市の教育理念や方針を勉強し、小中学校など実際の現場を見学させてもらった。
  - ・佐賀女子短期大学（連雲港市職業技術学院と友好大学）にお願いし、大学教育について見学させてもらった。
  - ・沖縄へ県外研修に赴き、平和教育や文化教育について研修を行った。
- どの場所を見学するに当たっても事前にいただいた資料で予習し研修に臨む姿勢が見られ、本人の意欲を強く感じた。
- また、本人が興味があるとのことで、佐賀の偉人（大隈重信や江藤新平など）を率先して勉強して佐賀市を理解しようとする気持ちも感じた。
- ・佐賀市の行事（佐賀インターナショナルバルーンフェスタや栄の国まつりなど）や国際交流イベント（国際理解講座や国際料理教室など）に参加し、佐賀市民の国際理解の推進に寄与してもらった。
  - ・連雲港市へ中学生を派遣する事業の派遣前説明会で中国の紹介などをしてもらい、中学生が中国を理解する一助を担ってもらった。



「ゆめぼけっと」での子育て体験

- ・成人式など、日本の伝統行事にも興味をもち、積極的に見学をされた。
- 本人の研修に対する大きな意欲がありこの研修を通じて学ぼうという姿勢が強く、研修期間中はスムーズにいったと思う。ただ、相手方のある研修（短大での研修など）は日程調整が難航した。また、交通手段が自転車しかないために、遠方へは公用車で送迎を行った。



国際料理教室に参加している様子

### 3 成果・課題

本年度は上海万博が行われたこともあり、市長以下万博訪問団に通訳として同行し、佐賀市を中国へ紹介する役割を負ったり、10代の劇団や佐賀県庁の自主研修グループに中国の紹介をしたりして、市民の国際理解を深めるのに役立った。折りしも尖閣諸島問題で中国との関係が冷え込んでくる中、佐賀市民が感じている中国への感情に対し、誤解を解消したり和らげる一助となった。

本人が佐賀を大変気に入る人脈も広がったことで、今後また何らかの交流が続いていくものと思われる。佐賀と連雲港市の草の根での友好交流が続いていき発展につながることを思う。

## 「10人目の研修員を受け入れて」

自治体名 : 熊本県芦北町  
研修員名 : 李 智恵 (イ ジヘエ)  
派遣元自治体 : 大韓民国 始興市  
研修分野 : 一般行政  
研修期間 : 9か月  
主な研修部署 : 企画財政課



保育園現場研修

### 1 背景・目的

本町では、町の重要施策の一つに「国際化・国際交流の推進」を掲げ、様々な国際化施策を展開していますが、その一環として、平成13年度より本事業で大韓民国からの研修員を受入れており、今回で10人目の研修員受入れとなりました。

本事業では、研修員が一般行政のノウハウを効率的に習得できるような研修を主体としていますが、町民との積極的な関わりを持ってもらうことで、本町の国際化推進の一翼を担ってもらうような研修期間とすることを重要視しています。

### 2 研修内容

研修分野は、一般行政研修を主体として、各課の業務研修を実施しました。また、本町の特徴的な分野である国際交流、福祉分野の現場研修、各種イベントへの参加の他、町内各地で住民の方が行っているまちづくり事業にも積極的に参加してもらいました。

一方、研修員の主体的活動として、町国際交流祭りでの韓国料理の調理・販売や町民向けの韓国料理教室も開催しました。また、町国際交流協会が主催する韓国語講座では講師を務め、16回に渡る講座では工夫を凝らした内容で、参加者の絶大な評価を得ていました。



韓国語講座

### 3 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

研修計画や内容については、研修員の意見・要望を聞き、出来るだけ本人の意向に沿った研修とするよう心掛けるとともに、受動的なものより能動的な研修プログラムを編成することに主眼を置きました。

結果として、福祉分野やまちづくり事業での多くの現場研修を始め、韓国料理教室や韓国語講座など、本人が企画立案して行う研修を多く実践することができました。

このような研修を通して、町民の方と知り合い、交流する機会を得たことで、今後、町民と草の根でつながる交流に発展してくれることを期待しています。

李さんは、方言（熊本弁）を理解するのに多少苦勞されましたが、持ち前のバイタリティと町民との交流を深めるなかで、徐々に解消したようです。

また、李さんはツアーガイドの経験から旅行に興味があり、研修期間中の休日などは寸暇を惜しんで国内観光地へ出かけ、日本文化を積極的に吸収し、理解しようとする姿が印象的でした。

#### 4 成果・課題

本町では長年に渡る事業の継続により、研修員の受入れは町民にも広く浸透しており、今回の研修期間中も、多くの町民の方に関わり合いを持っていただきました。

様々な事業を実施する中で、在住する外国人と町民が接する機会を提供していますが、本事業で受入れる研修員が最も住民に身近な活動をしており、それを通して得られる町民の感性の研鑽は大きなものがあり、世界に開かれた町としてのグレードを上げるものと思っています。

また、韓国では国際交流や国際貢献といった分野はまだまだ途上であり、芦北町での研修経験を活かし、李さんが起点となって韓国での国際交流・貢献の輪が広がることを願っています。

課題としては、研修員が韓国で勤務する自治体の課題と本町が抱える課題では、地勢や人口規模等に差異があることから、一般行政研修を受入れる際には、ある程度課題が合致するような人選を行う必要があると感じています。